

子どもたちの明日

2003年3月 NO.65



カンボジアの保育所 ©小林正典
Childcare Center in Cambodia
©Masanori KOBAYASHI

目次 CONTENTS

- 支えられて22年、そしてこれからも
～ボランティア交流金記録 ② Volunteer Day
- 卒園児調査
～保育所を出た子どもたちを訪ねて ⑥ Follow-up of Children
Who Attended CYR Childcare Centers
- カンボジア事務所だより ⑧ News from Cambodia
- イベント報告・お知らせ ⑩ Report of Events and Information
- People
コイ・パラニー(ケマラ代表) ⑫ People
Ms. Koy Phallary,
The Representative of KHEMARA



CARING FOR YOUNG REFUGEES
幼い難民を考える会

Children, Our Future

March 200

支えられて22年、そしてこれからも ~ボランティア交流会記録

1月18日、CYRのボランティアの方との交流会が行われ、総勢21名のボランティア、職員、理事が集まりました。この会は、「CYR設立時の話を聞くことでCYRの目的や理念を再確認したい。その上で自分に何が出来るかを考えたい」というボランティアの方々からの提案で実現しました。

最初に「出来事」があった

深水正勝代表理事: NGO論などは今でこそ本にもなっているが、それは後から出てきたもの。CYR設立の前に理念があったのではなく、最初に「出来事」があった。

1979年、タイ国境に逃れたカンボジア人がどんどん死んでいく状況が日本でも連日報道されていた。何かやらなければと思ひ、聖心女子大学のシスター広戸直江さんやいいぎりゆきさん(CYR設立者)たちと、とにかく行ってみることにした。

カンボジア国境のサケオというキャンプは緊急的な状況だった。何万というカンボジア人が国を逃れてやってくる。たくさんの方が途中で死んでいた。子どもたちがテントに押し込められ、栄養失調、病気などひどい状況だった。遊ぶ子どもなどひとりもない。欧米の援助団体が、子どもたちに食料や薬などを配っていた。何をしたらいいかわからず、最初にやったことは子どもたちが休めるように日陰を作ったことだった。

子どもたちを収容するのではなく、安心して遊べる場所を作ることが必要だと感じ、1980年、今度はカオイダンという10万人規模のキャンプに向かった。

その頃すでに緊急援助隊はキャンプを引き上げつつあった。日本で集めた寄付をもとに、「希望の家」を作った。い

つ国に帰れるか分からない中でも希望を持ってほしいという願いを込めた。難民の人たちが資材を集め建物を作り、希望者を募り保育者として養成した。だんだん子どもたちも安定していった。

10年も経つと、「国に戻るまでここにいないといけない」と絶望的に考える人たちもいた。完全に隔離された環境で、食べ物も支給され、生活はできるけれどどこにも行けない、将来もない。やりきれない気持ちになった。



カオイダン難民キャンプの子どもたち
Children at Khao I Dang Refugee Camp

Volunteer Day

In the beginning, there was "an occurrence"

In 1979, the press reports of how Cambodians were perishing at the Thai Border where they had fled from atrocities at home prevailed. Sister Hirodo of Sacred Heart and Ms. Iigiri (the founder of CYR) joined me as we headed toward the refugee camp.

We felt a need for a place where children could play in safety in the refugee camp, and built "House of Hope" in 1980 with the money collected in Japan. The name signified the hope of Cambodians for going back to their country. Refugees gathered materials, built the house and trained childcare workers. We discussed when we would cease our work, why we were doing it, and what we were aiming at. The idea came after the fact, not the other way around.

Cambodia became stabilized thereafter but even

its national budget is still largely dependent on foreign aids. At a time when the future of Cambodian society is unpredictable, we should seriously consider what we should do next.

(Masakatsu FUKAMIZU, Representative)

Encounter with CYR

I kept on distributing foods and clothing at a Laotian refugee camp day after day to refugees that kept arriving. A Japanese person supporting childcare in Khao I Dang Refugee Camp answered my questions of "how can I decrease the number of refugees?" and "how can we establish permanent peace?". The person said "we should begin with children". That is how I came across CYR.

Every child has "the seeds of peace", but their sprouting depends on adults and environment surrounding them. If I had not heard those words, I

村の中へ活動に移す

内戦が収まって1993年には難民キャンプは閉鎖。しかし難民の人が戻るカンボジアの村は貧しく、病院もなく、教育は先生がみんな殺されて機能していなかった。やはり村で支援を始めているNGOもあり、我々もプノンペン近くの村で保育を始めた。

そのときに、若い人たちを中心に合宿をして議論しあった。いつまでやるのか、なぜやるのか、何をめざすのか。理念というのは初めからあったのではない。出来事があった、とにかくやっているうちにその意味を考え出した。

その後国は安定してきたが、まだ自立はとても難しい。国家予算も多くが外国からの援助に頼っている。カンボジアの社会がどうなっていくか見えにくい中で、我々がどうすべきか、いま真剣に研究しなければならないと思っている。

CYRとの出会い

深津高子理事：ラオス人難民キャンプでボランティアをし、毎晩メコン川を渡ってタイに逃げてくる人々に食料や衣類を配っていた。配っても次の日にはまた難民が出る、また配るの繰り返し。自分のしていることは何なのかと悩み続けた。その頃訪れたカオイダン難民キャンプで、保育支援をしていた日本人に「物を配っても難民は減らない。どうすれば恒久的な平和を作りだせるのか」と悩みをぶつけてみた。その人の答えは「子どもから始められますよ」。それがCYRとの出会いだった。最初はその言葉の意味がわからなかったが、ずっと頭に残っていた。

その答えが知りたくて子どもについて勉強を始めた。子どもは誰でも「平和の種」を持っているが、その種が芽を出すかはまわりのおとなや環境次第ということを知った。いいざりさんのあの言葉がなかったら、子どもが持つ素晴らしい能



第12回CYRバザー(1984年)
The 12th CYR Bazaar in 1984

力を知ることなく、難民に物を配り続けていたかもしれない。CYRと出会ってこれから何をやるべきかわかった。

世界の中でも「子どものことを考えることが戦争をなくすことにつながる」という考えで活動している団体はまだ少ない。これからも多くの人に平和は子どもから始まることを伝え続けたい。

日本でCYRを支えた人々

佐藤和子理事：難民キャンプでCYRが活動を始めたとき、日本では聖心女子大学に事務所を借り、大学で働いていた私も手伝うことになった。みんな全くのボランティア。最初は何もわからず、物もお金もない。税理士や弁護士に手伝ってもらい、なんとか規約を作って総会を開いた。難民キャンプにたくさんいたボランティアを支えるために、日本ではお金を集めなくてはならない。バザー、街頭募金……。みんな本当に一生懸命に突き進んで、気持ちがひとつになっていた。とても大変だったけれど気持ちよく楽しくできた。

might still be distributing things to refugees without knowing what wonderful capacities the children have.

Not many groups in the world believe in "thinking of children will lead to getting rid of the war". I hope to continue telling people that peace begins with children.
(Takako FUKATSU, Director)

Those Who Supported CYR in Japan

CYR started its activities in Japan by renting an office from a women's college. Ordinary people without expert knowledge or financial means wrote the rules and held its first general meeting with the help of a tax attorney and a lawyer. We had to raise money to support volunteers at the refugee camps. We held bazaars, solicited for donations on the streets, and did everything the hard way but with satisfaction of having achieved something.

(Kazuko SATO, Director)

Challenges for CYR

Challenges for CYR include working toward independent management of the four childcare centers by villagers, cooperating with Cambodian government and local NGOs working for children, and supporting women's self-reliance through weaving and literacy education.

The year 2002 ended with the income of about 5 million yen from membership fees, donations and sale of calendars. The membership is 673 and donors 566, an increase of 192 over the previous year. With the decrease tendency of subsidies, I am grateful for increased gifts of money from private people. By effectively transmitting information about Cambodia and relying on the members' resources, we hope to increase our income.

(Rika MINEMURA, Head, Secretariat)

これからの課題

峯村里香事務局長：支援を続けている4ヵ所の保育所の自立が今の目標。村の人たち自身の力で保育所を動かしていけるよう働きかけを続けていきたい。

また最近ではエイズ、児童労働、買春といった新しい子どもの問題が増えており、現地政府やNGOと協力して問題に取り組む準備を始めている。まずは調査し、計画を立て、資金を集めること。何年後かには現地NGOが自立できるような支援をしていきたい。そして女性の自立支援。タケオ州で地域センターを復活させる。住民と共に織物や識字を中心に多面的に女性を支えていきたい。

うれしいニュース

資金難はいつものことだが、うれしいニュースもある。昨年末には、会費、寄付、カレンダー販売で約500万円の収入があった。不景気の中でも多くの方にご理解をいただけたことをとても感謝している。また会員は673名で昨年度末より86名増えた。10年くらいずっと減少を続けていたのでこれは画期的なこと。寄付者も566名で106名増えた。

理由はいくつか考えられる。一昨年に毎日新聞に活動が取り上げられ大きな反響があったこと。募金を継続して下さる方が増えていること。「総合的な学習の時間」にカンボジアについて学んだ小中学生が街頭募金で集めた寄付を届けてくれること。会員は会員の方のご紹介で広がっていること。カレンダー、織物の購入をきっかけに支援者が増えたこと。

補助金は減少の傾向が続く中、会費や寄付の増加はとて心強い。心よりお礼をお伝えしたい。カンボジアでの仕事を支えるために、日本のみなさんにもっとわかりやすく現状を伝え、収入を増やしていきたい。みなさんのお知恵をお借りして日本で活動の裾野を広げていきたいと思っている。



カンボジアの保育所 Childcare Center in Cambodia

前半の話を受けて、さまざまな立場でCYRを支えてくださっているみなさんからCYRの活動についてのご意見をうかがいました。その一部をご紹介します。

活動を広げていくために

「現地で働く人の話を聞いて、継続的に支援に取り組む学校や団体も増えている。自分の周辺でもCYRの理解者を増やしたいと働きかけている。」

「国際協力に関心のない人たちにもCYRの織物をアピールできるといい。CYRは緊急援助ではないので人の関心は薄くなりがち。援助の意味で買ってもらうだけでなく、布そのものの素晴らしさを普通の人に伝えることも大切になるのでは。今までとは違った層を取り込めるよう商品開発を手伝ってきたい。」

支援のあり方、考え方

「ものを作る、寄付する、そのあとにそれを持続させるのが

Responsive to the above, volunteers voiced their opinions on various issues.

To Expand CYR Activities

"Schools and groups are beginning to offer sustained supports after hearing the reports of those working in Cambodia. I am trying to increase people's awareness of CYR around myself"

"We should appeal the attractiveness of the weaving products of CYR to those who have no interests in international cooperation. Since CYR is not engaged in emergency support, not many people are interested. We should sell the weaving products not to get the source for support but by appealing their quality. I will continue to help with development of the products that will appeal to entirely new sets of people.

What is Support?

"The most important thing is to sustain whatever activities we started. The staff in Cambodia makes sustainability possible. It is so difficult to collect large amount of money, but the staff should really try harder to use the money more effectively. Under any circumstances, we should always support the local staff."

"I joined CYR's study tour to Cambodia last year, and felt that NGOs were playing big roles as the government couldn't even afford building schools. When I heard a childcare worker say that she was grateful to CYR and would like the support continued, I saw the gap between CYR trying to make Cambodians self-reliant and Cambodians who couldn't do without CYR. I wondered about the meaning of assistance."

"To know how to provide assistance is difficult, but to cherish richness of children's emotions I witnessed in Cambodia is more important."

一番大切だと思う。カンボジアに職員がいるから継続が可能になる。お金を集めるのはとても大変だけど、それを実際にどう使うかは現場の努力次第。だからどんな状況でも現地のスタッフを大切にしてほしい。」

「昨年CYRスタディツアーに参加した。政府が小学校の整備すらできていない中で、NGOの役割は大きいと感じた。保母さんが『CYRに感謝している、これからも援助をお願いしたい』と言うのを聞いて、現地の自立をめざすCYRと、まだCYRなしではやっていけない現実とのギャップが見えた。援助とは何かを考えさせられた。」

「支援のあり方は難しいが、カンボジアで見た子どもたちの心の豊かさを大切にしたい。」

人のつながりが大きな力を生む

「相手が企業であっても人のつながり、人の紹介が効果的。そうでない限り、今の時代、新しい支援先を増やすことはほとんどない。」

「多くの人の興味を引くには団体の情報をたくさん発信すること。良い情報を広げていくために広報の努力を重ねていくしかない。」

「会員に地元の郵便局にパンフレットを置いてもらう、ツアーに行った人が地域で報告会や写真展をするなど、草の根で広げていく。そういうことで一人ひとりが主役となれる。これはものすごい力になる。」

「人ととのつながりで長くボランティアを続けられている。これか



らは自分たちが、新しい人たちに居心地の良い場所を提供していきたい。」

活発な意見交換が、時間をオーバーして続けられました。多くの方に支えられてCYRが成り立っていることを改めて深く感じました。これからも、みなさんと共に歩みつづけていくCYRでありたいです。最後に、この会

の提案者であり司会を務めた安田雄太さんの感想です。

予想以上に盛りだくさんな内容で、その場だけでは語り尽くせなかった、もっと突っ込んだ話が聞きたかったと感じ、次回につながるかなと思っている。

現段階のカンボジアではCYRの援助はまだまだ必要なようだ。しかし、援助が最終的には自立をめざさなければ、単なる対処療法に過ぎなかったり、現地に迷惑をかける結果にすらなる。援助するにはそれなりの覚悟が必要なのだと改めて感じた。そのために今後も、知恵を出して現場と共に考えていくことは山ほどあるのだろう。

ご参加くださったみなさんありがとうございました(順不同)

渡辺恵子さん、藤本鉄也さん、江藤正子さん、江波戸玲子さん、ポール・クワークさん、上田晋平さん、熊田久恵さん、今井美恵子さん、小倉佳奈江さん、田中大輔さん、中良和美さん、沢田剛守さん、中村国敬さん、大橋優加さん、安田雄太さん
CYR 理事：深水、深津、佐藤 職員：峯村、松井、長谷川

Ties with people generate big power

“Even when dealing with enterprises, personal ties are the most effective. It is almost impossible to increase new supporters in this age without relying on people's referrals.”

“To attract attention of many people, it is essential to transmit as much information as possible. To expand the information source, we can only continue trying.”

“Ask the members to place CYR pamphlets at local post offices, ask the tour members to hold report meetings and photo exhibitions in their community, thus spreading the movement at grass roots and helping them to play the main role”.

“I have been able to continue my volunteer work thanks to my friends. It is time for us old timers to offer a comfortable place to work to new people who come to CYR willing to work as volunteers.”

Mr. Yuta YASUDA, who proposed the meeting and acted as the chair, concludes the long and active discussions.

“The discussions were unexpectedly diverse and meaningful and we needed more time. Maybe next time, we will be able to go into depth.”

CYR's assistance seems to be acutely needed by Cambodians at this stage. Unless the ultimate purpose of assistance is self-reliance, it remains merely a palliative therapy. I felt anew that assistance requires strong will. There are mountains of problems to think about and to solve with the Cambodian staff.”

卒園児調査

～保育所を出た子どもたちを訪ねて

CYRが運営する4カ所の保育所は、約200人の子どもたちが通い、毎年約60人がここを巣立っていきます。卒園した子どもたちはその後どう育っていくのでしょうか。卒園児のその後を調べることで、保育事業の意義も検証でき、保護者や学校の保育所への評価も把握できます。今回は、全卒園児を対象に行った調査の報告とエピソードをお届けします。

村の進学事情

回答者数(人) 413	
小学校進学人数	
Number of pupils who entered primary schools	413
小学校在学者数	
Number of pupils currently attending primary schools	346
小学校中退者数	
Number of dropouts from primary schools	14
中学校在学者数	
Number of students attending junior high schools	49
中学校中退者数	
Number of dropouts from junior high school	4
その他 Other	1

カンボジアの学校制度は日本と同じように6(小)・3(中)・3(高)です。小学校の就学率(就学者数/就学年齢者総

卒園児調査の対象と方法

対象地:

- A. ハンキアン地区ハンキアン保育所(卒園児128名)
- B. ハンキアン地区プレイトゥ保育所(卒園児97名)
- C. サムロクコム地区チェンメン保育所(卒園児103名)
- D. サムロクコム地区トロピエンタヌン保育所(卒園児117名)

対象者: 保育所の全卒園児445名(6~17歳)の保護者
(インタビューによる回答者数434名)

この他に卒園児が通う小学校の先生8名

実施者: 4保育所の保育者16名

実施期間: 2002年12月~2003年1月

数)は全国平均が83%に対して、卒園児は96.6%でした。調査時期も違うので一概に比較はできませんが、卒園児は順調に小学校に進んでいるようです。中退の主な理由は、家の手伝いや経済的な事情でした。中退した子どもの多くは農業や工場、家事などの仕事をしているようです。全国平均では、小学校1年生の15%、2年生の15%、3年生の10%が中退するという結果があります。

全国平均でも約1割の小学生が留年するとあるように、今回の調査でも留年が目立ちました。中には、13歳でまだ4年生という人もいます。留年は、子どもが家の仕事を手伝う、必要な教科書代などが払えない、勉強についていけずに進級テストに合格できないことが理由だと言われています。家庭の事情で16歳で小学校に入学したある生徒は、「恥ずかしい」と言って辞めたそうです。近年では留

Follow-up of Children Who Attended CYR Childcare Centers

About 200 children attend CYR's four childcare centers and about 60 "graduate" every year. How are these children faring now? Follow-up of the children helps to verify performance of CYR's childcare management and to learn opinions of parents, guardians and schools. We report here the study conducted on all the children who had attended CYR childcare centers and their current situation.

School Attendance in Villages

The school system in Cambodia is similar to that of Japan, namely 6-(primary school), 3-(junior high), 3-(senior high). The national average of attendance for primary schools (number of those attending school/number of those aged 5 to 24) is 83%, whereas that of those who attended CYR's childcare centers was 96.6%. Since the timing of study differs, it is not logical to generalize, but majority of CYR graduates seem to be attending primary schools. The main reasons given for not withdrawal were helping with housework or economical destitution. The dropouts seem to be working mainly in the fields, factories and homes. According to a national statistic, 15% of the first graders, 15% of the second graders and 10% of the third graders of primary school

Outline of the Study

Subjects: 434 parents and/or guardians of 445 children (aged 6 to 17) who had attended CYR Childcare Centers, and 8 teachers of primary schools where these children attend

- (A) Beng Khyang Childcare Center (128 children)
- (B) Prey Ta Toch Childcare Center (97 children)
- (C) Cheng Meng Childcare Center (107 children)
- (D) Trapaing Thong Childcare Center (117 children)

Method: 16 childcare workers of the four childcare centers conducted the interview.

Period: December 2002 to January 2003

withdraw without finishing the prescribed years of attendance.

About 10% of primary school pupils repeat the same grade on national average. Our study also found many who failed to promote. A 13-year-old was attending the fourth grade. The reasons given were that the child had to help with the house work, the family was so poor that they could not afford text books, or the child failed to pass the promotion test. A boy entered the primary school when he was already 16 because of family reasons, but he soon quitted because

Villages	National ave. for rural households				
村	A	B	C	D	農村部世帯平均
Ave. monthly income 平均月収	US \$ 20.3	22.4	50.7	59.3	82.37
Max. monthly income 最高月収	55	76.9	100	200	
Min. monthly income 最低月収	1.3	0.4	17.9	12.8	

学校の先生たちから見た卒園児の特徴は？

- ・グループ活動に慣れている
- ・入学後1ヵ月は授業と遊びの区別をつけるのが大変。その後は落ち着いてくる。
- ・身なりが清潔。
- ・覚えが早くて教えやすい。
- ・先生や親を敬うことができる。

年は減りつつありますが、依然としてカンボジアの教育における大きな問題となっています。

浮かび上がってきた村人の暮らし

保育所の自立をめざす上でも、村の経済水準を知る必要があります。農村地帯であるバンキアン・プレイトウ村（A・B）と、都会に近いチェンメン・トロピエンタヌン村（C・D）の収入差が大きく、生活レベルの違いが浮き彫りになりました。職業は、農業が最も多く、次いで「商売」「教員」「工場」「バイクタクシー」と続き、ほとんどの家庭が農業の他に副業をしています。同じ村の中でも、収入の差が歴然と存在しています。

調査の経験が保育者の自信に

保育所の評価では、約88%の保護者が保育所に子どもを通わせたことに満足し、91%が保育所の存続を望んでいると答えています。保育料月1000リエル（約31円）につ

いては、約95%が妥当、1%が高いと考えています。

今回の調査では、同じ村で暮らす保育者たちが家庭訪問をして聞き取り役となりました。

「久しぶりに子どもたちに会えてうれしかった」「子どものために村の保育所を残してほしいと言われた」「子どもたちをいい子に育てていきたいと思った」

保育者たちは、保護者や学校の先生から保育所の評価や卒園児の様子を聞き、励まされて、保育者の仕事に誇りを持ったようです。

CYRでは今後も調査・分析を続け、これからの活動に生かしていきます。数字の分析と共に、少数回答や個人の意見も大切にしていきたいものです。

(文中教育統計：1998-02 Education Indicators / Ministry of Education, Youth & Sports
経済統計：Cambodia Socio-Economic Survey 1999 / National Institute of Statistics)

she was "ashamed of himself". Although the number of children who have to repeat the same grade is decreasing recently, it remains one of the major problems for education in Cambodia.

Village Life as Reflected in the Study Result

We should learn the economic standard of villagers if we were to promote economic independence of the childcare centers.

Beng Khyang and Prey Ta Touch (A and B) are in rural areas, whereas Cheng Meng and Trapaing Tnong (C and D) are closer to the city, thus generating differences in villagers' income and living standards. The majority were engaged in agriculture, followed by "small businesses", "teachers", "factory workers", and "bike taxi drivers". Most families held side jobs in addition to farming. There were vast differences in income in the same village.

Good Reputation of Childcare Centers Boosts Morales of Childcare Workers

About 88% of parents and families was satisfied to have sent their children to the childcare center, and 91% wishes that CYR childcare centers will continue to exist. About 95% find the monthly fee of 1000 riels (about 31 yen) reasonable, while 1% found it expensive.

The present survey was conducted by childcare

workers living in the same villages as the respondents. "I was glad to see children after quite some time", "I was asked to continue the village childcare center for children", and "I hope these children will grow sound and healthy".

Childcare workers seem to have been encouraged and to have gained confidence in their work as parents, guardians and school teachers told them how well they evaluated the childcare center and as they learned how these children were doing after leaving the childcare center.

CYR will continue its study and analysis and will utilize their results in its future activities. It also hopes to attach importance to minority views and individual opinions rather than to analyze figures alone.

(Sources: "1998-02 Education Indicators/Ministry of Education, Youth and Sports", "Cambodia Socio-Economic Survey 1999/National Institute of Statistics")

Feedback by School Teachers

Children who attended CYR childcare centers are: accustomed to group activities; have difficulty in differentiating study and play, particularly in the first month after enrollment; are clean and tidy; quick to learn and easy to teach; pay respect to teachers and parents.

カンボジア事務所便り

カンボジアで新たな事業がスタートします。
CYRの新しい取り組みをこれからも応援して
ください。

<都市部貧困層の子どもたちへの支援>

新しい社会問題

カンボジアでは最近、都市部に極貧層が増え、新たな社会問題が浮上しています。

現地NGO「ケマラ」が保育所を運営するプノンペンの北西部、トンレサップ河沿いのルセイカエウ地区は、雨季には洪水や川の氾濫で家が流される被害の多い地域です。また、差別を受けやすい少数民族出身者が多く住み、住民の多くは、野菜売り、建設労働、レンガ工場などの日雇い労働に従事しています。ストリートチルドレン、買春、薬物、エイズ、家庭内暴力など、子どもたちを取り巻く問題も深刻です。

保育事業に実績を持つケマラ

ケマラは1991年に誕生したカンボジア初の現地NGOです。子どもと女性を活動対象とし、保育事業、栄養教育、識字教育、家庭内暴力に虐げられている女性へのカウンセリング、収入向上事業、エイズ教育などに取り組んできました。しかし、深刻な資金難のため、2002年4月より保育所は閉鎖されています。親が働きに出ている間、子ども

たちは町や家の中で放任状態です。保育所を失った都市部の貧しい子どもたちの問題は、CYRが取り組むべき新しい課題でもあり、保育所再開に向けてCYRはケマラへの協力を計画しています。

子どもと女性支援に関して経験豊富なケマラから、識字教育、貸付け、保健教育などの分野でCYRが学ぶことはたくさんあります。また、お互いに培ってきた保育の経験交流、農村部と都市部の子どもたち、保育者同士の交流も期待できます。



現在は閉鎖している保育所
Closed Childcare Center

News from Cambodia

Please continue your support for our new efforts.

<Support for Children of the Urban Poor>

Emerging social problem

Extreme poverty is on the rise among urban population in Cambodia, and new problems are emerging. Russei Keo District along the Tonle Sap River in the northwest of Phnom Penh is vulnerable to flooding during the rainy season. Many minority people live here and work as vegetable venders, construction workers, and day laborers in brick factories. Serious problems facing children include prostitution, drug abuse, AIDS, domestic violence and life on the street.

KHEMARA's past performance in childcare service

KHEMARA was created in 1991 as the first NGO established by Cambodian people. It has served children and women through childcare service, nutrition education, literacy education, counseling for women victims of domestic violence, income generation and AIDS education. Its childcare center was closed in April 2002 due to serious financial difficulties. Children are unsupervised in the streets and at homes while parents go to work. Children of the urban poor without childcare center is CYR's next challenge, and CYR plans to offer assistance to KHEMARA in reopening its childcare center.

With KHEMARA's ample experience in supporting women and children by literacy, small loan and health programs, CYR has much to learn from them as it offers its expertise in childcare and training of childcare workers.

<村の地域センターの再建>

使われなくなった施設

タケオ州トロッピエンクラサン地区には、現在では使われなくなった地域センターがあります。これは数年前にユネスコの「寺子屋運動」で建てられたもので、2001年のユネスコ撤退後は機能していません。

この施設を地域住民のために有効利用したいという要望が、地区の役人からCYRのもとに届きました。CYRでは村を調査し、旧ユネスコ地域学習センターの再建に協力することになりました。

女性を多面的に支える

タケオ州は伝統織物の盛んな地域で、この地区にも織物の経験者がたくさんいます。今回の地域センターには新しく織物棟を増築し、既存のCYR織物センターをここに移転する計画です。研修生に加えて地域の女性も対象に、伝統的な緋織や草木染めの研修を行います。

また、住民が自主的に続けてきた小規模の識字教室と協力して、織物研修生や地域の女性を対象にした識字教育にも力を入れます。住民、教育省、地方行政と協力して内容を充実させ、農村女性の識字率向上に貢献したいと考えています。

最終的に私たちがめざすのは、地域住民による運営です。そのためには、地域の調査や情報収集がとても重要です。まずは私たちが地域を知ること、その上で何ができるか、住民の方たちと共に試行錯誤していきたいと考えています。



上・中：現在は使われていない建物とミシン
下：コミュニティーリーダーたちとの話し合い
The building and sewing machine which are not now used / The meeting with commune leader and his committee

<Reconstruction of Village Community Center>

A Community Center in disuse

There is a vacant building in Trapaing Krasaing in Takeo that was built several years ago as a community center for UNESCO's "non-formal education project". UNESCO withdrew in 2001. A request for its renovation was extended by community officials and CYR accepted the request.

Multi-faceted Support for Women

In Takeo Province, the traditional art of weaving is still being followed by many women, and this district is no exception. A new building will be added to the center to house CYR's Weaving Center. In addition to the current trainees, community women will receive training in ikat weaving and dyeing with

natural dyes.

Literacy education will be expanded from the current small-scale community class to include the weaving trainees and community women with the help from residents, the Ministry of Education and the local government for further improvement of literacy rate among village women.

Our ultimate purpose is management by the community people. By learning more about the community and gathering information, we will find out what we can do to help achieve this purpose.

◆書損じハガキ、切手のご協力をありがとうございました

昨年末に書損じハガキと未使用切手のご寄付を呼びかけた結果、たくさんの方々からお送りいただきました。改めてお礼申しあげます。これらは通信費としてカンボジアの活動に大切に使用させていただいております。引き続き集めていきますので、ご協力をお願いいたします。

◆ Thank you for donation of un-used post cards and stamps

Responding to our year-end appeal for donation of un-used post cards and stamps, many sent their generous gifts. These will be used for postages; please try to save and send us post cards and stamps that you no longer need.

... 寄稿 ... CONTRIBUTION ...

支援者の甲野恵子さんから、12月のニュースレターをご覧になった後にお手紙をいただきました。

Ms. Keiko KOUNO has written to us after reading our newsletter.

思いがけなく早かった冬の訪れに戸惑って、何も手につかないでいるうちに、時間だけはどんどん過ぎていってしまいます。そろそろ振込みに郵便局へ行かねばと思っておりますところに、ニュースレターの12月号をお送りいただきました。

With the sudden unexpected onset of winter, there seem not enough hours in the day to get everything done. Just as I was thinking of going to the Post Office to make postal transfer of membership fees, the December issue of CYR Newsletter arrived.

ニュースレターにかかるお金もかなりの額であろうと、わたしでさえ気がもめるくらいですから、スタッフのみなさまにすれば、その分のお金をカンボジアでの活動資金に回すことができれば、と思うこともおありになるでしょう。でもNGOの活動にとってアドボカシーは、実際の援助と車の両輪のようなものだとわたしは理解しております。ニュースレターのおかげで、自分も微力ながら活動につながっていることが実感できます。せめて隅から隅まで読ませていただいています。今月号では、懐かしい方のお名前も拝見しました。それぞれの場にある人々をゆるやかに近づけていくような、そんな第二の役割も担っているのがNGOかもしれません。

I can imagine the amount of money needed to prepare and send out the newsletter and anxiousness of the staff in rather spending this money for more urgent activities in Cambodia. It is my understanding, however, that advocacy efforts for an NGO are essential just as the actual supports are. Thanks to the newsletter, I can see how even my small contribution goes toward helping. Reading every word and phrase, I came across the name of an old friend. It may be that an NGO's second role is to connect people of different spheres.

振込みは明日にもさせていただきます。スーパーマーケットの買い物袋持参のスタンプカードによる100円ずつの割引を貯めていたら、今年はちょうど1000円になりました。わたしの努力(?)とスーパーマーケットの協力の結果です。目的のはっきりわかっている寄付というのはとてもいいものですね。張合いもありますし、100食分の給食代になるなんて夢のようです。

I will make the transfer tomorrow. I have just saved 1000 yen this year by saving "stamps" given by a supermarket for bringing my own shopping bag. This result of my efforts (?) and goodwill of the supermarket will provide 100 lunches for children. It is so good to know where and for whom my donation will be used.

また、友人が引っ越したときに古いハガキを取っておいてくれたものと、職場であやうく資源ごみになるはずだった未使用ハガキや切手を選り分けてきましたので、一緒にお送りいたします。

I am sending you unused post cards which my friend saved and some other post cards and stamps that I found while sorting through the recycling bin at work. From the bottom of my heart, I pray that all of you at the secretariat will continue to be in the best of health and wish you further success in your activities.

スタッフのみなさまがお元気で更によりお働きをされますよう、心よりお祈り申しあげます。

◆プノンペン暴動と現在の状況について

1月29日から30日にかけてプノンペンで暴動があり、タイ大使館のほか、タイ系ホテルや企業が焼き討ちに遭いました。原因はタイの女優の「アンコールワットはタイのもの」という発言であるとされ、カンボジア人の反タイ感情が背景となっています。タイ政府は在カンボジアのタイ人約700名を軍用機で緊急帰国させ、国境を封鎖しました。その後、カンボジアのフン・セン首相がタイ政府に正式に謝罪し、事態は沈静化しました。プノンペンは一時的に銀行や空路の封鎖で混乱が生じましたが、現在では正常な状態に戻りつつあります。

CYRではタイ人スタッフのカンボイ・トングナム（ピアップ）が、タイへ一時帰国しましたが、それ以外では実害はなく、今までどおり業務を続けています。

スタッフの安否を気づかいご連絡をくださった方、ニュースを見て気にかけてくださった方、お心づかいをありがとうございます。ご心配をおかけいたしました。

CYRでは今後の状況も注意深く見守り、迅速な対応と情報提供を心掛けていきます。

◆Anti-Thai Riot in Phnom Penh

Anti-Thai riot erupted in Phnom Penh on January 29 and 30. The Thai Embassy and businesses, hotels and enterprises managed by Thai capital were targeted, set fire and looted. The riot was instigated by a remark attributed to a Thai actress that Angkor Wat belonged to Thailand. This incited Cambodians' latent anti-Thai feelings. The Thai government evacuated about 700 Thai residents in Cambodia by military aircraft and closed its border with Cambodia. Cambodia's Prime Minister Hun Sen then officially issued an apology for the violence, and the tension subsided. At the time of the riot, Phnom Penh city was paralyzed as banks and the airport were temporarily closed, but things have soon returned to normal. CYR's Thai staff, Khamphoy TONGNAM (Pheap), went back to Thailand. Apart from this, the incident caused no real harm to us and we continue our activities as usual. We thank all of you for your concerns about our staff's security as you watched the news coverage. CYR will endeavor to watch and be prepared for any emergency such as this and to gather and supply accurate information in timely manner.

CYR事務局のうごき(12月～2月)

報告会・講演会・学習会

- 12/4 日本外国語専門学校(東京)
- 12/21 NPOインターンシップ報告会(東京) 明治大学
- 1/8 WE ショップたま(神奈川)
- 2/12 坂井輪中学校(新潟)
- 2/15 日本女子大学付属中学校(神奈川)
- 2/28 生田小学校(神奈川)

カンボジア織物販売会・写真展

- 1/11-13 インターナチュラルガーデンプランツ(神奈川)
- 1/20-24 カンボジア写真展(岩手) 主催:工藤巖記念基金

チャリティバザー・その他イベント

- 12/19 グレゴリオ聖歌による主の降誕・前晩のミサと小コンサート
～幼い難民を考える会のために(東京) 聖心女子大学
- 1/18 ボランティア・デー(東京) CYR事務所

小中学生の事務所訪問

- 藤崎小学校(千葉)
- 志木第二中学校(埼玉)

ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

Events (Dec. - Feb.)

Lectures & Meetings

- 12/4 Japan College of Foreign Languages (Tokyo)
- 12/21 NPO Internship Program Symposium at Meiji Univ. (Tokyo)
- 1/8 WE Shop Tama (Kanagawa)
- 2/12 Sakaiwa Junior High. (Niigata)
- 2/15 Junior High School Affiliated with Japan Women's Univ. (Kanagawa)
- 2/28 Ikuta Elementary School (Kanagawa)

Sales of Cambodian Textile / Photo Exhibitions

- 1/11-13 Inter Natural Garden PLANT'S (Kanagawa)
- 1/20-24 Photo Exhibitions (Iwate)
Hosted by Kudo Iwao Memorial Fund

Charity Events & Bazaars

- 12/19 Mass Concert for Gregorian Chants
at Univ. of Sacred Heart (Tokyo)
- 1/18 Volunteer Day at CYR Office (Tokyo)

Visits by Elementary & Junior High Students

- Fujisaki Elementary School (Chiba)
- Shiki Daini Junior High School (Saitama)

Thank you very much for your cooperation.

子どもが中心になれる社会を コイ・パラニー(42)/ケマラ代表

カンボジア最初の現地 NGO「ケマラ」は資金難のため保育所を休止している。CYRは保育所再開に向けてケマラへの協力を決めた。代表を務めるパラニーさんにお話を聞いた。



商務省で経理を担当していたときにケマラと出会い、事務、経理担当として働き始めた。最初は子どもに関わる仕事についてよくわかっていなかったが、経験を積んでいくうちに少しずつ自分の仕事や組織に興味を持つていった。

ケマラが保育所を作った地域はとても貧しく、地方から出稼ぎに来た人が多い。特に保育所が閉鎖して以来、多くの問題が増えた。保健教育が受けられなくなり、子どもたちの健康にも悪影響を与えている。ストリートチルドレンも増えた。親が働いている間、家で幼いきょうだいの世話をするために、学校を辞めてしまう子どももいる。周辺に住む子ども198人のうち68人しか文字を読み書きできない。「どんな子どもにも、政府や社会全体からサポートを得て教育を受ける権利がある。子どもが中心的な存在として大切にされる社会をめざしたい」

代表としてふだんはオフィスワークが中心だが、彼女は頻繁に現場を訪れ、研修や会議に進んで参加する。地域の住民との対話を何よりも大切にしているからだ。穏やかに微笑むその姿からは想像もつかない行動力と芯の強さを持っている。「ケマラとCYRは『カンボジアの子どもたちの生活改善』という同じ目的を持っている。子どもたちのために、これから良い関係を作っていきたい」

Society Focusing on Children Ms. Koy Phallany (42), the Representative of KHEMARA

The first local NGO in Cambodia, KHEMARA, ceased its operations due to lack of funds and asked for assistance from CYR. Mrs. Koy Phallany, the representative of KHEMARA, tells us the following as CYR agreed to extend its help to her group.

She first learned about KHEMARA when she was working at the Ministry of Commerce and then started working as a clerical and accounting staff. In the beginning, she did not have much knowledge about the work related to children, but with time and experience her interests in the work and the

organization grew.

KHEMARA built a childcare center in the area inhabited by many migrant workers. Since the childcare center closed, problems increased. Without health education class, children suffer from poor health. Children quit schools to look after their siblings while their parents are at work. In the area, only 68 out of 198 can read and write.

"I believe that every child has the right to receive education supported by government and society. We should aim at a society with more focus on children."

As the representative of the organization, her work is mostly in office, but she frequently visits children, attend seminars and conferences because she believes effective communication with community people is most important. Behind her graceful smile, she has the iron will and strength.

"We hope to build a good relationship with CYR as we share the same purpose of 'improving life of Cambodian children'."



CYRの活動をご支援ください Please Join CYR

年会費 Membership fee per year

- 正会員 Regular member ¥10,000 学生会員 Student member ¥3,000
団体会員 Group member ¥30,000
賛助会員 Supporting member 規定なし Any amount

下記の口座にご送金ください。Please send the money to the following accounts:

- 郵便振替 Postal transfer: (特活) 幼い難民を考える会 No.00110-8-36227
銀行振替 Bank transfer: 特定非営利活動法人 幼い難民を考える会
東京三菱銀行六本木支店(普通) No.1351747

幼い難民を考える会(CYR)は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、1980年に組織されました。子どもたちが心身ともに健全に成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を出さない平和な社会につながることを信じ、復興を目指すカンボジアの農村で活動を続けています。

子どもたちの明日 65号 Children, Our Future No.65

◆発行日: 2003年3月5日 Published on March 5, 2003 ◆発行人: 深水正勝 Publisher: Masakatsu FUKAMIZU ◆定価 Price ¥200
◆翻訳ボランティア: 大井幸子、落合雅貴/デニス、ポール・クワーク
Translation Volunteers: Sachiko OHI, Denise & Masaki OCHIAI, Paul Quirk

特定非営利活動法人



CARING FOR YOUNG REFUGEES
幼い難民を考える会

東京事務局

〒106-0046 東京都港区元麻布3-2-20 丸統麻布ビル2F
TEL: 03-3796-6377 FAX: 03-3796-6399
Email: cyr@mtb.biglobe.ne.jp
URL: http://www.5a.biglobe.ne.jp/~CYR/

Head Office

Maruto Azabu Bldg. 2F, 3-2-20, Motoazabu, Minato-ku, Tokyo, 106-0046, Japan
Phnom Penh Office
No.67 Samdech Sothearos Blvd., Sangkat Tonle Bassac, Khan Chamkar Mon, Phnom Penh, Cambodia TEL: +855-23-210849